

香川大学改革の取り組み状況及び 今後の教育研究ビジョンについて

2013年11月18日
香川大学

香川大学改革の取り組み状況

1. 教員所属組織の再編による部局間連携

◆学系制の導入

2. 教育

◆アドバンスト・セミナーの創設

◆ネクストプログラムの創設

◆大学間連携

- ・四国におけるe-Knowledgeを基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施
- ・四国防災・危機管理特別プログラム

3. 研究

◆研究戦略室の創設

◆リーディングリサーチグループの決定

4. 社会貢献

◆サテライトオフィスの開設

◆瀬戸内国際芸術祭への積極的な参加

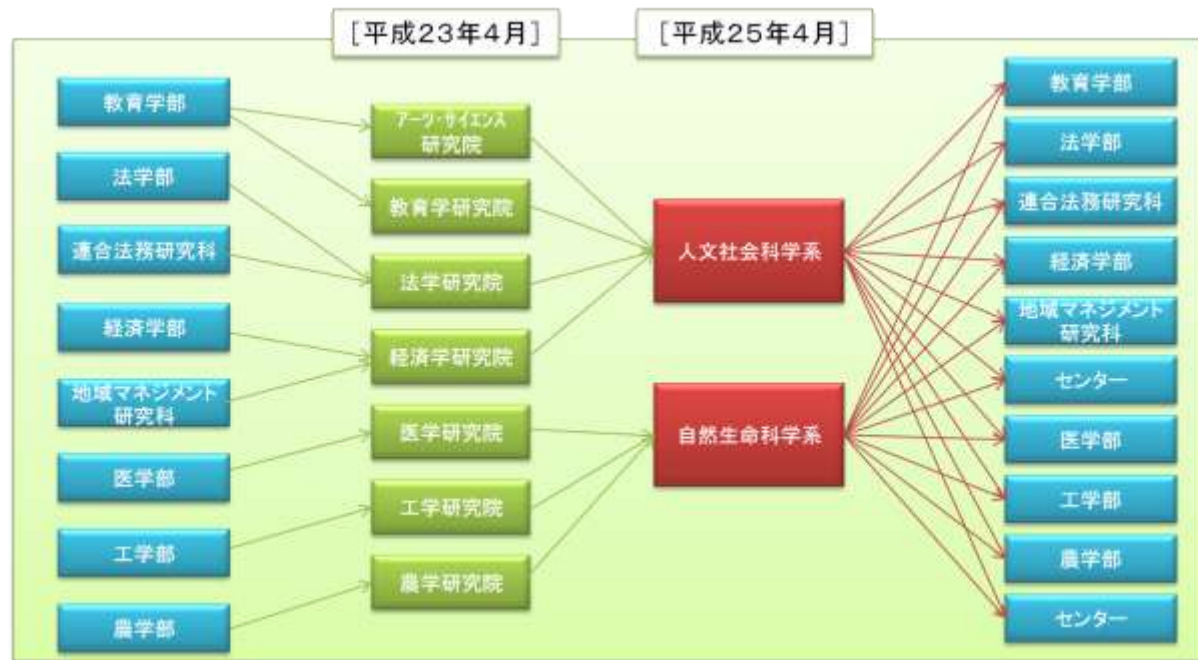
◆地(知)の拠点整備事業(COC)採択

5. 香川大学学生憲章

1. 教員組織の再編による部局間連携

◆教育研究の発展を支えるために、教員所属組織を大括り化し、教育研究組織との違いを明確にするため「学系」とする。

◆「学系」は、「人文社会科学系」と「自然生命科学系」の2学系とし、全ての教員はいずれかの学系に所属する。



◆学部・研究科の教育を充実させるために、全ての教員はいずれかの学部等の主担当教員となり、教育研究責任を担うとともに、他学部等の教育研究や共通教育に協力する。

◆これらにより、「学部の枠を超えた教育担当の実施」、「教育組織の見直しへの柔軟な対応」、「異分野連携研究の活性化」、「人員の適正化」などが可能となる。

1. 教員組織の再編による部局間連携

学系制の実効化を目指して(学系会議の設置)

学系は将来の改革を促進する組織



実効あるものにするための措置

学系会議

(毎月1回開催)

◆協議事項: ①部局間の教育連携と研究連携

②部局の教員採用計画

③部局間のポイント調整

④教員評価方針

◆メンバー: 学部長、副学部長、評議員、研究科長、副研究科長

◆学系長: メンバーの互選

2. 教育

香川大学アドバンスト・セミナーの創設

平成25年5月からスタート

- ◆前期(5月21日～7月9日)11回開催
- ◆後期(10月7日～12月9日)9回開催予定

様々な分野で活躍される学内外のトップクラスの方々を講師に迎え、講師と学生が双方向のやりとりを行いながら、最先端の研究の現場やリアルタイムな社会問題の現場の取組を間近に触れる。



アドバンスト・セミナーの様

参加学生の声

「最先端の研究内容を聴いただけではなく、一流の研究者としての体験談も聴くことができ非常に有意義でした。」

「グローバル人材やイノベーションに於いて何が大切なのかを考えさせられました。また、日本人が「学ぶ力」が十分でないこと、意欲が持ててないこと、失敗を恐れることを改めて実感しました。ハングリー精神を大切にします。」

「イノベーションということで「変革する」ことの大切さが痛感できました。日本に留まっただけではなかなかそういった気持ちにならないため、実際に海外に行って学んできた人の言葉は良い刺激になりました。」

「一つの物の見方にとらわれず、広い視野で物事を考えることが大切だと分かった。」

「怠惰ではいけない、チャレンジして自分を成長させるという言葉が印象に残った。」

2. 教育

香川大学ネクストプログラムの創設

(平成25年4月からスタート)

学部の枠を超えて学生が主体的に学習する
自由参加型の特別教育プログラム



<プログラム>

- ① グローバル人材育成プログラム(英語コース・中国語コース)
- ② 防災士養成プログラム
- ③ 人間探求(文学作品熟読)プログラム



“学生の新たな学びの機会を作る”

参加学生の声

「何か新しいことに挑戦したい。そして、何か苦手なものを一つでも克服したい。」
「“留学をする”という目的を持った人が集まっているので、お互いに切磋琢磨しながら勉強に取り組むことができ、面白いです。」

2. 教育

香川大学ネクストプログラム

教育学部・経済学部の教員
がプログラム開発・実施

① グローバル人材育成プログラム

◆参加状況◆
英語コース: 9名
中国語コース: 6名

国際的に通用する語学力と、国際的視野に立った専門知識や技能を深め、グローバル化の進む地域社会の課題解決に貢献できる人材を育成する。

語学力の向上

語学力向上のためプログラム関連授業科目の受講、ネイティブスピーカーとの対話レッスン、インターネットシステムを利用した自律学習を行い、TOEFL、HSKにチャレンジ



1年間の留学

1年間の留学経験を積む。それにあたり、大学が奨学金等の支援。ある一定の語学レベルまで達しないと認めない。

- 英語コース／カリフォルニア州立大学
- 中国語コース／上海大学・台湾真理大学など

2. 教育

全学の教員がプログラム
開発・実施

香川大学ネクストプログラム

◆参加状況◆
30名程度を予定

② 防災士養成プログラム

1年次に防災士養成関連科目を履修し、防災士資格取得試験に合格した学生の中から、2年次の4月に選抜（127名が履修中）

防災士の資格を持ち、職場や地域で率先して防災活動を行うことができる
知識と技能を持つ人材を育成する。

防災知識を学ぶ

2年次以降、防災ボランティア講座・
防災ボランティア実習等を受講し、
それと合わせて、消防機関の実施する
救命救急に関する講習を受講



防災活動を行う

香川大学学生防災士クラブを結成し、地
域の防災活動・災害ボランティア活動等
に参加し、防災ボランティアを実践

2. 教育

香川大学ネクストプログラム

全学の教員がプログラム
開発・実施

③ 人間探求(文学作品熟読)プログラム

◆参加状況◆
27名

あらゆる局面で変化が激しい現代社会。本プログラムは、刻一刻と状況の変化する社会を生き抜く、しなやかな人材を育成する。

文学作品の熟読

プログラム専用の文学関連科目を受講し、本学の教員が推薦する文学作品の中から30冊を選択して読み、レポートを提出



学生の活動

大学図書館で学生自らが本を推薦するなどの活動を行うことも可能

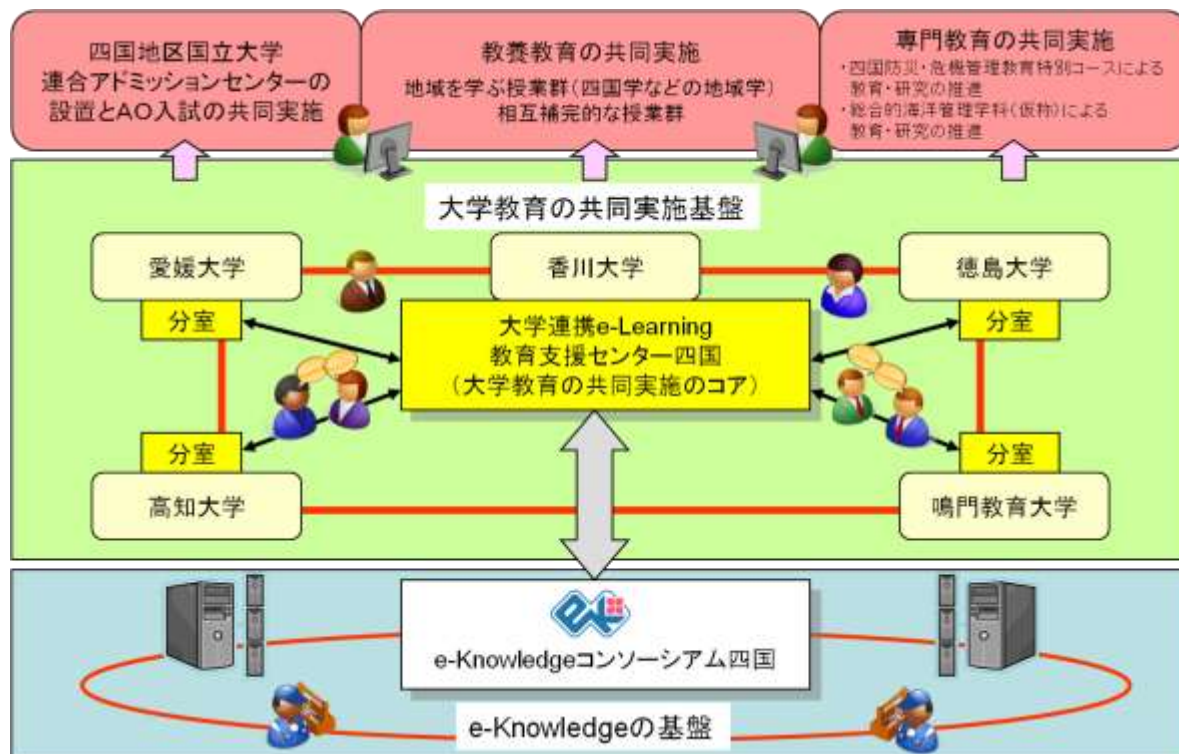
2. 教育

四国におけるe-Knowledgeを基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施

四国の国立5大学が相互に連携し、香川大学に大学連携e-Learning教育支援センター四国を設置するとともに、他の4大学にセンター分室を設置する。そのe-Learning基盤を活用して「四国地区における5国立大学連携構想」の中の大学教育を共同実施することによって、連携大学全体の教育の質の向上を図る。

◇連携大学◇

香川大学(基幹校)
徳島大学
鳴門教育大学
愛媛大学
高知大学



四国5大学連携による知のプラットフォーム形成事業(国立大学改革強化推進事業) (平成24年度採択)

2. 教育

四国防災・危機管理特別プログラム

大学間連携共同教育推進事業（香川大学・徳島大学共同開設）（平成24年度採択）

大規模広域災害やグローバル化する危機に対して、迅速な状況把握のもとに適切な判断・意志決定を行い、減災・復旧・復興・組織再生へ向けて適切に対応できる専門家を養成

→ 「四国防災共同教育センター」設置

開設コース名	募集定員	受講者数 (H25.10現在)
行政・企業防災・危機管理マネージャー養成コース	10名程度	33名
救急救命・災害医療・公衆衛生対応コーディネーター養成コース	5名程度	5名
学校防災・危機管理マネージャー養成コース	5名程度	3名



防災・危機管理実習の様子

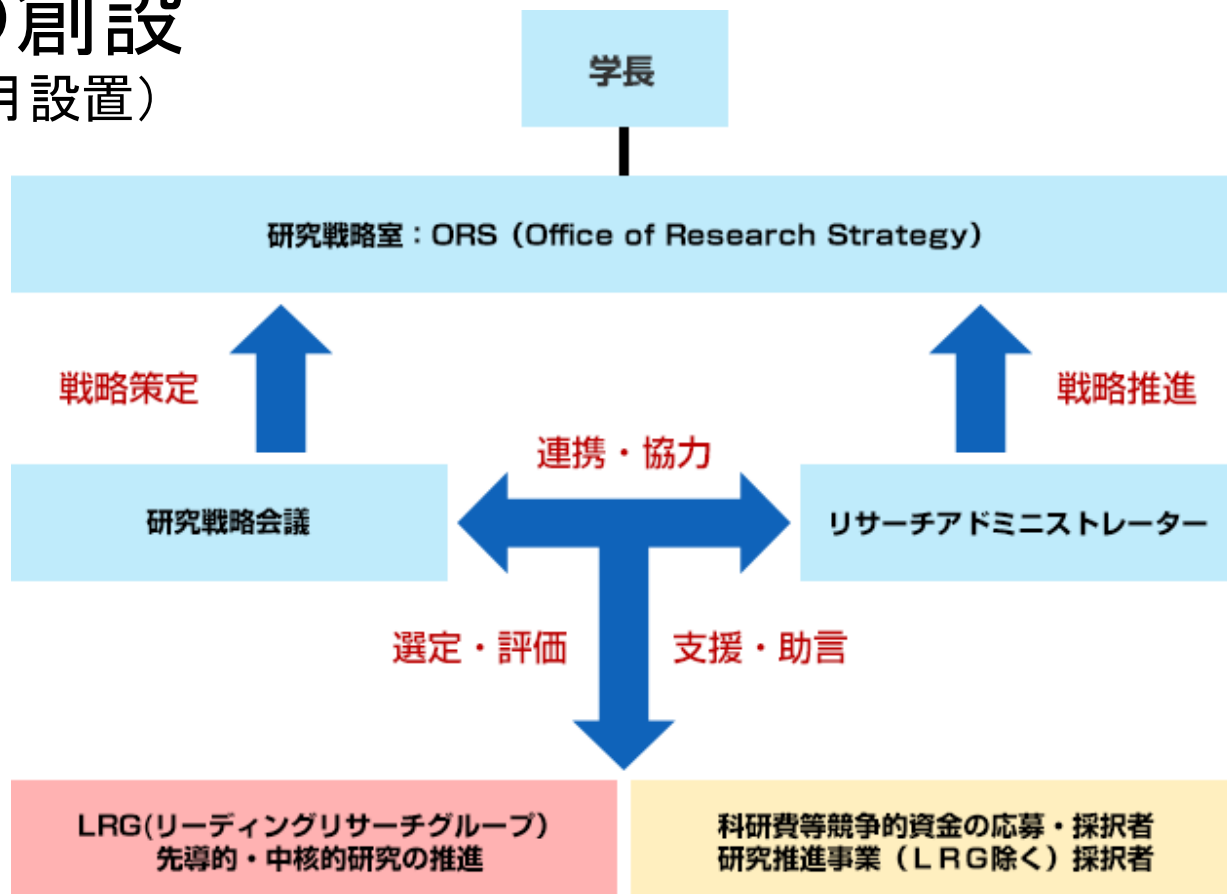


大学間のテレビ会議による授業の様子

3. 研究

研究戦略室の創設 (平成25年4月設置)

全学的な研究戦略や研究推進に係る基本的方針を定め、本学の研究水準の向上及び特色ある研究の推進を行う。



3. 研究

リーディングリサーチグループの決定

部局名	職名	研究代表者	研究課題名
工学部	教授	石丸 伊知郎	超小型広視野赤外分光断層イメージングによる革新的医用計測技術の創出
工学部	准教授	高尾 英邦	新領域連携分野を切り拓く細胞化センサ「Cell Sensors」の提案と応用展開
農学部	教授	多田 邦尚	豊かな里海の実現戦略と栄養塩管理
医学部附属病院	病院助教	森下 朝洋	消化器癌の浸潤、転移のメカニズムに関する全エクソーム解析

4. 社会貢献

サテライトオフィスの開設 (平成24年度開設)

教育・研究、学生活動等の
成果を発表する場

地域の方々と
顔の見える交流の場

地域の方々の
生涯学習活動を支援する場



中讃地域
坂出市民ふれあい会館
(坂出市本町)

香川大学
KAGAWA UNIVERSITY

ミッド・プラザ
(高松市常磐町)

西讃地域
三豊市市民交流センター
農村環境改善センター
(三豊市豊中町)

東讃地域
東かがわ市交流プラザ
(東かがわ市湊)

魅力あるコンテンツの提供

連携・協力に関する協定、覚書の締結

サテライトオフィスの運営

- ・ 地域のニーズを取り入れたコンテンツの開発
- ・ 自治体とのサテライト運営委員会の設置

- 出前講義
 - ・ 教養講座
 - ・ 地域連携講座(地域の歴史、地域の理解等)
 - ・ 医療系講座
 - ・ 学部・大学院の講義 等々
- 各種イベント
 - ・ 音楽系教員、学生サークルによるライブ演奏 等々

地域における様々な課題に対応し、幅広い分野での協力・連携するため
に包括的な協定を締結する。

4. 社会貢献

◆サテライトオフィス(平成24年度実績)

	講座数	受講者数
三豊サテライト	33	1,647
東かがわサテライト	33	949
坂出サテライト	30	632
ミッドプラザ	18	104
計	114	3,332

4. 社会貢献

瀬戸内国際芸術祭への積極的な参加

瀬戸内国際芸術祭2013に学生と教職員が積極的に参加し、ボランティア、カフェの運営、観光ガイド、コンサートなどを通じて、芸術祭を盛り上げるとともに、地域の活性化に協力する。

◆平成25年度の履修登録者**120**名
全学共通教育科目の単位取得可能

◆学長戦略調整費から
12のプロジェクト
(教員主導9、学生主導3)を支援

	教員名	プロジェクト名	履修登録者数
1	青山夕夏(教育学部)	フルーツとギターのDuo Concert 香川大学伊吹島コンサート	2名
2	原直行(経済学部)	さぬきマルシェプロジェクト	14名
3	西成典久(経済学部)	屋島山上ナイトツアー	7名
4	長谷川修一(工学部)	小豆島石の魅力創造シンポジウム	3名
5	ロンリム (インターナショナルオフィス)	本島・粟島国際交流プロジェクト	10名
6	牛島授公 (地域マネジメント研究科)	瀬戸内地域活性化プロジェクト	82名
7	倉石文雄(教育学部)	かがわ・山なみ芸術祭	2名
		計	120名

4. 社会貢献

香川大学プロジェクトの概要

①通年開催

教員	プロジェクト・イベント	内容
ロンリム (インター ナショナル オフィス)	本島・粟島 国際交流プロジェクト	瀬戸内や島の文化などを事前学習した留学生在が、伝統行事・イベントへの参加を通じて発見した島の魅力や感動を発信。
古川尚幸 (経済学部)	直島地域活性化プロジェクト 「和cafe ぐう」	2006年8月に学生が主体となってカフェをオープン。
	さかいで沙弥島プロジェクト 「香川大学えのきcafé」	春期の会場となった旧沙弥島小中学校に、香川大学生が地元の人々とカフェをオープン。
	小豆島SAKATEプロジェクト 「喫茶 白鳥」	香川大学生が、地域最古の喫茶店「白鳥」を住民とともに再開。
山本珠美 (生涯学習 教育研究 センター)	「瀬戸内国際芸術祭2013」 特別番組の制作	夏期・秋期の期間中、ラジオ番組を放送。プロジェクトに取り組む香大生の様子を紹介。
林 敏浩 (総合情報 センター)	瀬戸内国際芸術祭2013映像 アーカイブの構築	芸術祭期間中に各島の会場で展開されるプロジェクト活動および芸術祭の様子をビデオカメラで記録し、アーカイブ化。

4. 社会貢献

②春期開催：3月20日(水)～4月21日(日)

教員	プロジェクト・イベント	内容
青山夕夏 (教育学部)	4月6日(土) フルートとギターの Duo Concert	青山教授(フルート奏者)と上垣内寿光氏(クラシックギター奏者)によるデュオ・コンサート。香川大学えのきcafé内で開催。
大賀睦夫 (経済学部)	4月6日(土)、7日(日) 小豆島ミニ歩き遍路体験	香川大学生が先達となり、小豆島の遍路道を案内。

③夏期開催：7月20日(土)～9月1日(日)

教員	プロジェクト・イベント	内容
青山夕夏 (教育学部)	8月2日(金) 香川大学伊吹島コンサート	香川大学生による様々な楽器の演奏や楽器体験を企画。伊吹島の子供達と香川大学生がダンスと合唱で盛り上げた。
西成典久 (経済学部)	7月26日(金) 8月23日(金)、30日(金) 屋島山上ナイトツアー	観光客を対象として、学生主体で屋島山上ナイトツアーの企画運営。学生のアイデア満載のツアーを行った。
原 直行 (経済学部)	さぬきマルシェプロジェクト	高松港周辺での農産加工品を主体とした野外市場を通して、香川県の地域産業の活性化と観光客数の増加を図る。

4. 社会貢献

④秋期開催：10月5日(土)～11月4日(月)

教員	プロジェクト・イベント	内容
大賀睦夫 (経済学部)	10月19日(土)、20日(日) 小豆島ミニ歩き遍路体験	香川大学生が先達となり、小豆島の遍路道を案内。
長谷川修一 (工学部)	10月5日(土)、6日(日) 小豆島石の魅力創造シンポジウム	小豆島の魅力的な景観と石の文化の成り立ちをテーマに見学会や講演会を開催。
牛島授公 (地域マネジメント研究科)	瀬戸内地域活性化プロジェクト 粟島「お休み処」	香川大学生が島の方々と交流事業を行うとともに、10月の週末には、島の食材を活かして「お休み処」を運営。また、粟島を訪れる観光客のボランティアガイドの役割も担う。

⑤関連イベント

教員	プロジェクト・イベント	内容
倉石文雄 (教育学部)	かがわ・山なみ芸術祭	「過疎化や高齢化に悩む山間部」と「県内外の美術家」が協力して地域活性化をうながそうと企画されたアートイベント。

4. 社会貢献

平成25年度「地(知)の拠点整備事業(COC)」採択

香川県には人口減少や高齢化が進む中で、定住促進、観光振興、商店街振興、離島振興、コミュニティ活性化など様々な地域課題があることから、本学と自治体(香川県、高松市、丸亀市、三豊市、東かがわ市、観音寺市、三木町、宇多津町)が連携し、学生の視点を活かしながら地域活性化策の検討と地域での実践活動を行っていくことで地域再生を図る。



“地(知)の拠点としての本学を核とした地域連携事業を継続的に実施できるシステムを構築”

瀬戸内地域活性化プロジェクト [事例]

離島振興・街の活性化・定住促進対策などの地域課題にチームで対処していく

粟島活性化PJ

三豊市

離島振興

【地域課題】

人口減少
高齢化



【対処策】

瀬戸内国際芸術祭
を活かした交流人口
の増加



【地域目標】

アートを活かした
長期滞在・人口
定着



チームでお休み処運営

街活性化PJ

高松市

商店街振興

【地域課題】

商店街にもっと
若者が出向いて
活気ある街に



【対処策】

若者が集まり賑わ
うイベントの開催
情報誌の発刊
商店構成の分析など

【地域目標】

若者が集い賑わう
街に
商店街の側も商店
構成や商品で対応



地域活性化PJ

宇多津町

景観づくり

【地域課題】

新都市と古町
の融合的発展



【対処策】

古町の魅力を引き
出すイベントを開催
街並みについても提言



【地域目標】

和風の景観で
活気のある街に



定住促進PJ

東かがわ市

過疎対策

【地域課題】

人口減少と
高齢化が
急速に進展



【対処策】

大学生が地域の
お祭りを考案
コミュニティーに参画
定住する条件を提言

【地域目標】

大学入学や就職で
の人口流出を防ぎ
働き暮らせる街に



5. 香川大学学生憲章

学生七志

私たちは、穏やかで風光明媚な瀬戸の島々を眺めつつ、しなやかで強健な心身を養い、その先に広がる交流や未来に思いを馳せます。

日本一コンパクトな香川から、日本一コシの強いうどんが生まれたように、私たちは時代を見すえ、感性を研ぎ澄まし、地域へ世界へと羽ばたいていきます。

かけがえのない時間を豊かで実りあるものとするために、香川大学生としてキラリと輝けるように、私たちの志を謳った学生憲章をここに定めます。

- ① 学問や研究の世界に触れ 幅広い視野をもつ人になります
- ② 新しい知識や技術を習得し 果敢に挑戦する人になります
- ③ つながりを大切にし 大きく豊かな心をもつ人になります
- ④ 夢を描き その実現に向けて努力する人になります
- ⑤ 小さな変化も見逃さず 大胆な発想で行動する人になります
- ⑥ 市民として責任ある行動に努め 社会に貢献する人になります
- ⑦ グローバル社会の中で地域とともに 活躍する人になります

今後の教育研究ビジョン

1. 大学改革の継続

ミッションの再定義に基づき、学内資源を再配分し、部局の改革を継続する。

- ・教員養成機能の強化
- ・大学院の充実に基づいた理系人材の育成
- ・部局融合による社会・地域ニーズに基づいた人材育成コースの創設
- ・教養教育の充実 など

2. グローバル人材の育成

日本社会におけるグローバル化が進展するなか、グローバル社会で活躍できる香川大学らしい人材養成を行う。

(目標) 本学で修学する留学生200人⇒400人、本学学生の海外留学年間100人

3. 水問題への取り組み

香川県は「水問題」を抱えており、香川大学全体として総合的に「水を」テーマに研究を行う。そのため、専門チームを設置し、学内の叡智を結集して、「水を知る」ことから、「水を守り」、「水を作る」まで、一体となった先進研究を実施し、その成果を地域に還元する。

4. アカデミック・コモンズ(仮称)の整備(新しい教育の場)

学生・教員の交流による活性化及びグローバル化に対応した人材育成等を支援するため、来春、幸町キャンパスの図書館、学生支援センター(大学会館)のリニューアルオープンに合わせ、「アカデミック・コモンズ(仮称)」を整備する。一角には、英語で自由闊達に会話を楽しむイングリッシュカフェ等を設置予定。

香川大学の強みを活かした教育研究ビジョン

知の融合(フュージョン)

香川大学における教育研究の進展を図るため、文系、理系の枠を超えた新たな教育研究分野を推進する。

- 学部・学科の枠を超えた教育プログラムを構築。
- 社会・地域ニーズに応える人材を輩出するため、学生に対し、複合的・実践的な能力の修得・伸長を図る。
- COC(Center of Community)を整備。等

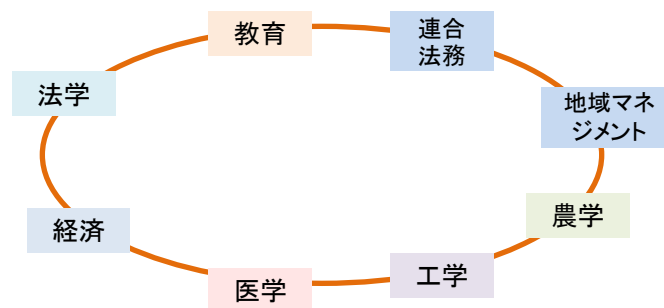
新しい価値の創造(イノベーション)

本学の強みや特色が活かせる独創的な研究、社会的課題に対応した研究を推進する。

- 香川県が推進する政策を先導する役割を推進。
- 先導性・実用性に対応した研究の戦略的な展開を図る。等



- * 香川県との連携を促進する。
 - ・かがわ遠隔医療ネットワーク(K-MIX)を利用した遠隔医療の展開
 - ・希少糖の開発、生産、応用
 - ・防災関連教育プログラムの策定
- * 瀬戸内圏の資源を活用した研究・技術開発を実施する。
- * 香川県が抱える「水問題」の解決に向けた先進研究を実施し、成果を地域に還元する。
- * 新産業の創出を支援する。



国際戦略(グローバル化)

進展するグローバル社会に対応するため、国際的に通用性のある教育を行う。

- グローバル社会で活躍できる香川大学らしい人材を養成。
- 学生が国際性を身につけることができる取組みを推進。等



- * 本学で修学する留学生200人⇒400人、本学学生の海外留学年間100人を目標。
- * 海外留学や留学生との交流、授業の英語化等を通じて、語学力強化、チャレンジ精神の育成、異文化に対する理解の向上等を図る。